SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク

NewsLetter

Vol.

島根大学

島根県立大学

松江工業高等専門学校

米子工業高等専門学校

2020年10月 発行

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)」 キックオフシンポジウム

ダイバーシティ研究環境実現に向けて 一多様性を活かして、ひとり一人が輝く未来へ!一

2020年7月27日(月)「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」キックオフシンポジウム「ダイバーシティ研究環境実現に向けて-多様性を活かして、ひとり一人が輝く未来へ!-」をオンライン開催しました。

はじめに、本事業を遂行するにあたり、どのような課題があり、どのように立ち向かえば良いのかを考える機会として「日本の社会・組織において、女性の活躍を阻むものとは? 一無意識の偏見をなくすために一」というテーマで東洋大学社会学部教授の北村英哉先生に基調講演を行っていただきました。

どこにでも潜んでいる無意識の偏見から逃れるための対策として、物事を判断する場合、必ず根拠を考えることが必要だと 北村先生は指摘します。そして偏見のない社会は誰もが住みや すい社会であり、組織全体が向上すると同時に穏やかで安定的 であるためには、構成員同士のフェア(公正)な関係と対応が 求められると結論付けました。

ダイバーシティ研究環境を実現するには、一人一人がこの無 意識の偏見を乗り越えて、フェアに進めていくことが大切であ ることを改めて多くの人たちと共有することができました。

後半は、連携4機関によるダイバーシティ事業の取組紹介と、パネルディスカッションを実施しました。ダイバーシティ事業に関する各機関の課題を再確認し、新型コロナウィルスによる影響を今後どう乗り越え、取組を発展させていくかについて自由な意見交換を行いました。今後、連携機関間では女性研究者支援のあり方について常に情報共有を行うこと、連携機関間での共同研究の促進による研究交流を活発化させていくこと、そしてオンライン会議システムの活用による頻繁な情報交換、会議、共催イベントの実施をしつつ、十分な感染対策を施したうえでの対面会議や対面イベントの再開も時期を見計らって実施していくことについて合意しました。





服部島根大学長挨拶

北村先生講演

研究マッチングイベント2020

2020年7月20日(月)・21日(火)の2日間の日程で、研究マッチングイベント2020をオンライン開催いたしました。

1日目は、連携4機関の研究者や企業の方など合計52名の方にご参加いただきました。まず、異分野融合研究の事例紹介として、島根大学生物資源科学部助教の吉岡先生にお話しいただきました。斐伊川の鮎に関する諸課題を解明するために、自然と様々な分野の研究者が必要となり、異分野融合チームが形成されていった経緯や、異分野融合研究には強みと同時に難しさもあることについて発表されました。

その後、研究マッチングを求める11名の連携4機関所属の先生方からのショートプレゼンテーションを行いました。発表者の方々は、自分の研究紹介、研究上ご自身ができること、そして求めるコラボレーションについて発表しました。 最後に、発表者の方と希望者の方とで個別ディスカッションを実施しまし

た。そこでは研究内容に関する質疑応答や、具体的な共同研究に向けた話し合いが行われました。

2日目の個別相談には2名 の先生方が来室され、研究 マッチングに関する個別相談 を実施しました。

今回のイベントを通じて13 組の後日面談の仲介を実施し、うち2組では共同研究が開始されるという成果を得ました。

異分野交流・連携 プラットフォーム はこちら→





SANIN ご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワーク、研究アイデアのひらめきのきっかけ、 新たな共同研究などを生み出す「場」作りを目的として月に1回程度開催しています。ご縁ネットミーティングでは、「メンバーが自身の研究 を中心に話題提供し、参加者でディスカッションする」学びながら交流 を深める企画を実施しています。

立木写真館(なっちゃんの写真館)が見つけた奇跡! 111年の時を超えて~日露戦争の写真に見る日露友好の記憶~

【日時】2019年7月19日(金)

【講師】立木 さとみ (徳島大学 監事・立木写真館5世代目)

【参加人数】20名

写真館に送られてきた写真から、日露友好の交流の歴史を辿っていかれた過程をおはなしいただきました。参加者からは「改めて写真の持つ力に気付いた」「学校で習ってきた歴史とはまた違った観点から歴史を見ることができた」という感想が寄せられました。



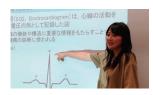
心電図について

【日時】2019年9月19日(木)

【講師】李 セロン (松江工業高等専門学校 情報工学科 助教)

【参加人数】11名

不整脈や心筋梗塞の診断に使用される「心電図」の情報工学からの機能と、自動診断する ための研究についておはなしいただきました。 「胎児心拍図にも応用できるのでは」などの意 見がありました。



肺がん患者を対象とした臨床試験について

【日時】2019年11月26日(火)

【講師】津端 由佳里(島根大学 医学部 内科学講座 講師)

【参加人数】15名

津端先生は患者さんを診る中で、「肺がん患者 のどのくらいの人に血栓がおこり、どのくらいに治療をすればよいか」というクエスチョンから、ご自分で計画して、現在全国で多施設共同臨床試験を実施しておられます。クリニカルクエスチョンから研究に繋げる手法についても教えていただきました。



認知から子ども理解を深める:授業のインクルーシブ化 の条件と方法を考える

【日時】2019年12月17日(火)

【講師】 松尾 奈美 (島根大学 教育学部 附属教師教育研究センター 講師)

【参加人数】17名

子ども同士の学び合いの可能性について話し合いました。「学生対応の参考になった」「他の子どもたちにどう伝えるかが難しい」「教員の数が少なくて手が回らない」など、参加者の経験に基づいた質問が相次ぎ、活発な討議が行われました。



光でモノをはかる

【日時】2020年1月20日(月)

【講師】竹内 麻希子(長岡工業高等専門学校 電気電子システム工学科 准教授)

【参加人数】10名

太陽電池化合物半導体の評価と農産物の検査についてお話しいただきました。

参加者から「様々な種類の太陽電池を開発する意味を教えてください」「形が悪くても美味しいことを示すことができれば、農産物の市場価値が上がるのではないか」「カニなどの水産物の品質評価に応用できないか」などの様々なコメントや質問が出されました。



専門職連携教育(IPE)とは

【日時】2020年2月20日(木)

【講師】朝比奈 真由美

(千葉大学 医学部附属病院 総合医療教育研修センター 教授) 井出, 成:美

(千葉大学大学院 看護学研究科 附属専門職連携教育研究センター 准教授)

【参加人数】19名

千葉大で行われている医学生・看護学生・薬学生のIPE、IPEに関する研究についてお話しいただきました。その後、グループに分かれて、実際のIPEを体験しました。グ

ループワークでは、参加者が一緒に作業を行うことで、参加者同士の関係が促進される実体験ができました。今後、様々な分野において共同研究が進むことを願います。



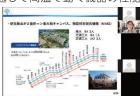
航空機ジェットエンジン用耐熱材料

【日時】2020年6月12日(金)

【講師】 御手洗 容子(東京大学大学院 新領域創成科学研究科 物質系 教授) 【参加人数】 106名

耐熱チタン合金の可能性や現在開発中の高温形状記憶合金など最先端の研究内容を紹介していただいた後、参加者の様々な質問に丁寧に答えていただきました。本ミーティングを通して「材料を通して高温で動く機器の性能

向上に貢献したい」という 御手洗先生の熱い思いが伝 わってきました。そして キャリアは偶然に与えられ た機会をいかに活かしてい けるかということが理解で きました。



主体的学びの形成

~コミュニケーション学からの視点から~

【日時】2020年7月30日(木)

【講師】香川 奈緒美 (島根大学 教育学部 准教授)

【参加人数】17名

大学教育におけるコミュニケーション学の活用について、 データも交えて丁寧にお話しいただきました。特にアメ リカの大学院で学び、その後アメリカで教鞭をとってお

られた先生が、日本の教育 現場に来られた時に感じた コミュニケーションに対す る価値観の違いや暗黙の ルールについては参加者も 共感するところが多く、活 発な議論が繰り広げられま した。



液状化による住宅の傾斜被害が住人の健 康状態に及ぼす影響

【日時】2020年9月24日(木)

【講師】芹川 由布子(松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 助教) 【参加人数】 15名

現地調査によって得られた液状化による住宅の傾斜被害 データおよび被害にあった住民へのアンケート結果を用 いた報告で、液状化による住宅の傾斜被害の深刻さを理

解することができました。 芹川先生の大学院時代の緻密な実験や他の分野の研究 者との共同研究から、この 課題を何とか解決したいという熱い思いが伝わってき ました。



ダイバーシティ推進のためのアンケート結果

6月から7月にかけて連携4機関の全教職員を対象に実施したダイ バーシティ推進のためのアンケート結果について報告いたします。 アンケート調査には、493名(島根大学:309名、島根県立大学:66名、松江高専:65名、米子高専:53名)の方にご協力いただきました。属性の内訳については図1に示します。男女比はほぼ半数、年齢別では40代の方が一番多くなっていますが、20代から60代以上の方々、職種においても教員、職員、医療職員と様々な属性の方々にご回答いただきました。

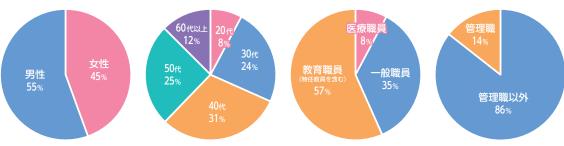


図1 回答者属性

ダイバーシティに関する意識について、全体としては図2の結果となりました。各項目の属性別の回答傾向については、別途報告書に詳述しますので、HPをご覧ください。

■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ 全くそう思わない Dいては性差が存在する。

①研究やその他業務の遂行能力については性差が存在する。 ②小さい子どもがいる女性に重要な仕事を任せるのは避けた方が本人のためだと思う。 ③意欲や能力のあるものを育成・登用すべきである。 ④あまりひとりひとりの家庭事情を勘案して仕事を調整することは組織の効率を下げることになる。

⑤あなりのとりのとりの家庭事情を勘案のでは事を調整することは組織の効率を下げることになる。 ⑤あなたの所属部局は、十分ワークライフバランスが男女ともに取りやすい環境である。 ⑥あなたの所属部局では、男女ともに平等にキャリアアップの機会が与えられている。 ⑦あなたの所属部局の上位職に就くのは、女性には荷が重いと思う。

⑧男性も女性もワークライフバランスが取れるのが理想の職場である。0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

図2 ダイバーシティに関する意識

島根大学

●生体電気インピーダンス分析機器を用いた肥満の病態解析と 効果的な指導介入について

◎杉原 志伸 [保健管理センター (准教授)]、武田 美輪子 [島根大学 地域 包括ケア教育研究センター (特例研究員)]、南 雅樹 [米子工業高等専門 学校 教養教育科 (教授)]

●若手教師の視点と知見を最大化する組織の意思決定プロセス の構築と教員研修改革

◎香川 奈緒美〔教育学部(准教授)〕、深見 俊崇〔島根大学 教育学部(教授)〕、高橋 泰道〔島根県立大学 人間文化学部(教授)〕

●モノテルペンがプラスチック分解に及ぼす影響およびナノス ケールにおける微細構造評価

◎王 傲寒〔総合理工学部(助教)〕、山□ 勲〔島根大学 総合理工学部(教授)〕、粳間 由幸〔米子工業高等専門学校 物質工学科(准教授)〕

●食品系バイオマスを活用したヘルスケア製品の製造技術の開発 ◎鶴永陽子〔人間科学部(教授)〕、髙橋哲也〔島根大学 人間科学部(教授)〕、松本真悟〔島根大学生物資源科学部(教授)〕、高橋泰道〔島根県立大学人間文化学部(教授)〕

●遺伝性神経変性症の病態解明に向けた、CCP1蛋白とミトコンドリアの動態解析

◎荒木 亜寿香 [医学部 (講師)]、山本 達之 [島根大学 生物資源科学部 (教授)]、青木 薫 [米子工業高等専門学校 物質工学科 (教授)]

●ラマン分光法を用いた有機溶媒中アミノ酸濃度の定量分析手 法の開発

◎石垣 美歌 (戦略的研究推進センター (助教)]、山本 達之 (島根大学 生物資源科学部 (教授)]、青木 薫 (米子工業高等専門学校 物質工学科 (教授)]

●「国文学」の制度化に関する基礎的研究ー「国文学」はいかに して大学の中に根づいたかー

◎野本 瑠美 [法文学部 (准教授)]、田中 則雄 [島根大学 法文学部 (教授)]、原田 健太郎 [島根大学 大学教育センター (講師)]、渡邊 健 [米子工業高等専門学校 教養教育科 (教授)]

2020年度女性研究リーダー育成支援事業 (共同研究型)

連携機関間の共同研究を促進し、女性研究者の研究力の向上を 支援するため、連携機関に所属する女性研究者が研究リーダー となる連携機関間の共同研究に対し、研究費を助成していま す。今年度採択されたのは下記研究課題です。

◎:研究代表者

●地域伝承が地域コミュニティおよび子どもの社会認知 発達に及ぼす効果:神楽の多面的検討から

◎高見 友理〔人間科学部(准教授)〕、菊野 雄一郎〔島根県立大学 短期大学部(講師)〕、佐藤 桃子〔島根大学 人間科学部(講師)〕、岩瀬 峰代〔島根大学 大学教育センター(准教授)〕佐藤 鮎美〔島根大学 人間科学部(講師)〕

●島根県がん・生殖医療ネットワーク構築にむけた研究

◎折出 亜希〔医学部(講師)〕、濱村 美和子〔島根県立大学 別科助産学専攻(講師)〕、狩野 鈴子〔島根県立大学 別科助産学専攻(准教授)〕

松江工業高等専門学校 -

●島根県大田市の三瓶山周辺を対象とした地域防災力向上 に関する研究

◎芹川 由布子〔環境・建設工学科(助教)〕、向吉 秀樹〔島根大学 総合理工学部(助教)〕

米子工業高等専門学校・

●地方都市中心市街地における公共空間化する商業施設 の実態に関する研究

◎小椋 弘佳〔建築学科(准教授)〕、細田 智久〔島根大学 総合理 工学部(教授)〕



託児サービス

休日の入試業務における託児サービスを行っています。

研究サポーター制度

育児や介護等によって研究時間の確保が困難な研究者に対して、 大学が配置した研究サポーターが研究の補助業務を行う研究サポーター制度を実施しています。

子育て学生ランチ会

毎週水曜日、子育で学生オンラインランチ会を実施しています。 これは、子育てしながら学ぶ学生同士の交流の促進と情報交換を 目的としたものです。参加希望等のお問い合わせはダイバーシ ティ推進室までお寄せください。

てごほ~む×SUN'IN Girlsクイズ企画

月1回、島根大学医学部学生無料塾サークル「てごほ~む」の定例勉強会の休憩時間を利用し、SUN'IN Girlsによるクイズ企画を実施しています。SUN'IN Girlsの学生達による、した



理科や数学関連のクイズで、参加する中高生だけでなく、ボラン ティア学生も一緒になって楽しみながら学んでいます。

2020年度 島根大学女性研究リーダー育成支援事業 (プロジェクト創出型)

学問分野の境界を越えた連携・融合により、新たな知見の発見や 複数の分野間にまたがる社会的課題の解決、新たな研究領域の開 拓等を目指すものを支援しています。

若手女性研究者を対象とした科学研究費補助金 獲得支援事業

若手女性研究者による科学研究費補助金の獲得を目指す研究プロジェクトに対して、研究費や科研費アドバイザー配置の支援を行っています。

国際学術雑誌投稿支援事業

研究成果の国際的発信を強化するため、論文投稿料、英文校閱料 等の関連経費への補助を実施しています。

研究助成情報検索システム RegiSU

必要な研究資金情報をタイムリーにお届けすることにより、女性研究者による外部研究資金の獲得とキャリアアップを支援するため、「島根大学研究助成情報検索システムRegiSU(Research grants information system for Shimane University researchers)」を立ち上げました。



公立大学法人 **島根県立大学**

研究者版 e ポートフォリオENISHIの開発

女性研究者が研究者として成長しながら働き続けられるためには、基盤となる研究力の強化や、働く場・働き方の多様化の理解と推進が必要となります。

そこで、あらゆる研究機関や場で活動可能な女性研究者の育成・ 教育支援、継続性の強化のため、個々の女性研究者が所属する機

関の枠にとどまらず、 共通して活用可能な 指標と自らのキャリ アデザインを具体化・ 可視化するために、ト 可っオリオENISHIの開 発を目指しています。





管理職等を対象とした男女共同参画研修会を開催

本校では初めてとなる管理的立場にある教職員を対象とした男女 共同参画研修会を実施し、14名が参加しました。

"しまね女性の活躍応援企業"としても活動されている松江土建株式会社より講師として周藤 司様、牧野 良治様をお招きし、「建設らしくない建設会社を目指すために〜女性が活躍できる職場環境づくり〜」と題してご講演いただきました。「制度を作る、整備することはあくまでも手段であり、個人の意識が変わらなければ、組織は変わらない。」と述べられ、個人の意識を変えるために、組織として明確な意思を示すことの重要性を強調されました。今回の研修を本校の取組へ活かしていきます。







女性研究リーダー育成と女性研究者の裾野拡大

女性研究リーダー育成に向けた取り組みとして、キャリアアップ 講演会を開催しました。

9/27 キャリアアップ講演会 活躍する女性ロールモデル

10/24 学生支援・外部機関連携

11/27 Learning Management System の活用

2/14 科学者たちが残した言葉

また、本校が在学生(高専生・専攻科生)を対象に1/11に開催した進路研究セミナーにおいて、大学教職員が直接相談を行う場

を提供し、大学院博士課程(後期) 走課程(後期) を選択肢とするめたの女性人材育を含めたがました。大学院が18ブーキ約70 大人が参加しました。



進路研究セミナー

今後のスケジュール

●英語論文の書き方セミナー

開催予定:【基礎編】2020年12月4日 出 · 8日以·11日 金

【応用編】2021年1月25日月・27日州・29日金

開催方法:オンライン

参加对象者:島根大学、島根県立大学、松江高専、米

子高専に所属する研究者および大学院生

● 第2回研究マッチングイベント

開催予定:2021年3月 開催方法:オンライン

発表者:島根大学、島根県立大学、松江高専、米子高

専に所属する研究者および大学院生

参加対象者:研究者および大学院生のほか、企業等に 所属する研究者・技術者、行政関係の方など異分野交 流や異分野連携に興味関心のある方ならどなたでも